

第2回伊佐市総合振興計画審議会

日 時：令和3年10月7日（木）13：30～

場 所：大口ふれあいセンター
（3階 多目的ホール）

（会 次 第）

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 辞令交付
- 4 議事
 - (1) 第1期まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証及び意見交換
 - ・ 第1期まち・ひと・しごと創生総合戦略取組み報告
 - ・ 地方創生推進交付金事業報告
 - (2) 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組み状況について
 - ・ 令和2年度実施分の事業の取組み状況について
- 5 その他
- 6 閉会

伊佐市総合振興計画審議会座席票

議長

轟木 高昭

井立田 裕也

河野 辰男

長野 則夫

淵之上 俊典

野村 治男

松田 忠大

末吉 龍一郎

吾孫子 浩之

松元 初美

中村 宣子

田代 伊津子

事務局

石神
龍佑

中村
周二

石原
昭紀

岩崎
正史

平川
聖一

伊佐市総合振興計画審議会委員名簿

区 分	所属団体等	氏 名	備考
学識経験者	鹿児島大学 法文学部教授	まつだ ただひろ 松田 忠大	
学識経験者	始良・伊佐地域振興局 総務企画部長	すえよし りゅういちろう 末吉 龍一郎	
学識経験者	鹿児島銀行 大口支店長	あびこ ひろゆき 吾孫子 浩之	
学識経験者	国分公共職業安定所 大口出張所長	まつもと はつみ 松元 初美	
女性代表	国際ソロプチミスト大口伊佐会	なかむら のぶこ 中村 宣子	
女性代表	伊佐市男女共同参画推進協議会	たしろ いっこ 田代 伊津子	
農業団体代表者	伊佐市認定農業者の会 会長	とどろき たかあき 轟木 高昭	
農業団体代表者	伊佐YADクラブ 会長	いたちだ ひろや 井立田 裕也	
農業団体代表者	伊佐森林組合 代表理事組合長	かわの たつお 河野 辰男	
教育委員		ながの のりお 長野 則夫	
商工会代表者	伊佐市商工会 会長	なかむら しゅうじ 中村 周二	
観光協会代表者	伊佐市観光特産協会 会長	ふちのうえ としのり 渕之上 俊典	
福祉団体代表者	伊佐市社会福祉協議会 会長	のむら はるお 野村 治男	
社会教育団体代表者	伊佐市文化協会 会長	ひらかわ せいいち 平川 聖一	
社会教育団体代表者	伊佐市体育協会 会長	いわさき まさし 岩崎 正史	
社会教育団体代表者	伊佐市青年団 団長	いしがみ りゅうすけ 石神 龍佑	
その他市長が認める者	伊佐市コミュニティ連絡協議会 会長	いしはら あきのり 石原 昭紀	

◇伊佐市総合振興計画審議会条例

(所掌事務)

第2条 審議会は、次に掲げる事項について、市長の諮問に応じ、調査、研究及び審議する。

- (1) 市勢発展のための基本計画及び基本構想に関すること。
- (2) まち・ひと・しごと創生法(平成26年法律第136号)に規定する基本的な計画に関すること。

◇まち・ひと・しごと創生法

(市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略)

第十条 市町村(特別区を含む。以下この条において同じ。)は、まち・ひと・しごと創生総合戦略(都道府県まち・ひと・しごと創生総合戦略が定められているときは、まち・ひと・しごと創生総合戦略及び都道府県まち・ひと・しごと創生総合戦略)を勘案して、当該市町村の区域の実情に応じたまち・ひと・しごと創生に関する施策についての基本的な計画(次項及び第三項において「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」という。)を定めるよう努めなければならない。

- 2 市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略は、おおむね次に掲げる事項について定めるものとする。
 - 一 市町村の区域におけるまち・ひと・しごと創生に関する目標
 - 二 市町村の区域におけるまち・ひと・しごと創生に関し、市町村が講ずべき施策に関する基本的方向
 - 三 前二号に掲げるもののほか、市町村の区域におけるまち・ひと・しごと創生に関し、市町村が講ずべき施策を総合的かつ計画的に実施するために必要な事項
- 3 市町村は、市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略を定め、又は変更したときは、遅滞なく、これを公表するよう努めるものとする。

第1期まち・ひと・しごと創生総合戦略取組み報告

基本目標 I【交流人口の増加から定住人口を増やす】 (ひとの流れづくり)	H27	H28	H29	H30	R元	結果		達成度	評価
						基準値	目標値		
【成果指標】 総交流人口 令和元年度に70万人	66万人 <small>観光客・宿泊客数 ツアーリストム</small> 659,935	63.8万人 <small>観光客・宿泊客数 ツアーリストム</small> 638,299	65.3万人 <small>観光客・宿泊客数 ツアーリストム</small> 653,034	61.6万人 <small>観光客・宿泊客数 ツアーリストム</small> 616,061	75.8万人 <small>観光客・宿泊客数 ツアーリストム</small> 757,963	75.8万人 /年	70万人 /年	達成	景勝地である菅木の滝への観光、また令和元年度に開催された国体リハーサル大会、全国高校総体により交流人口増加が図られた。
【具体的な施策①】 自然の中で体験・感動できる新たなアクティビティ(クライミング・ジップライン等)の施設整備 【重要業績評価指標/KPI】 新たなアクティビティの利用者数 開業後に年間1万人	-	-	-	-	-	-	-	未達成 (-)	当初計画していたジップラインの施設整備には至らなかった。しかし、新たな取り組みとして、市民スポーツクラブや地域おこし協力隊員が湯之尾の川内川等においてSUP体験を実施するなど新たな取り組みがされた。
【具体的な施策②】 キャンプ場などを活用したアウトドアのメッカとしての宿泊施設整備に関する調査・検討 【重要業績評価指標/KPI】 宿泊者数 令和元年度に3.8万人	ホテル可 能性調査 3.9万人 <small>宿泊客数+ツアー リストム</small> 38,600	2.9万人 <small>宿泊客数+ツアー リストム</small> 28,943	2.8万人 <small>宿泊客数+ツアー リストム</small> 28,268	2.7万人 <small>宿泊客数+ツアー リストム</small> 26,829	2.9万人 <small>宿泊客数+ツアー リストム</small> 29,031	2.9万人 /年	3.8万人 /年	未達成 (76%)	「十曹青少年旅行村」、「楠本川溪流自然公園」、「RVパークいさぎ菅木の滝」の公共施設の整備を図っており、毎年、市内外から数多く利用されている。年間を通じ、利用可能なことから、近年のアウトドアブームもあって利用者が増加傾向となっている。
【具体的な施策③】 農林地を活用した反復型グリーンツーリズムの導入 【重要業績評価指標/KPI】 ツーリズム観光客数 令和元年度に800人	692人	309人 <small>熊本地震影響</small>	176人 <small>葉草の社</small>	118人 <small>硫黄山影響</small>	64人	64人 /年	800人 /年	未達成 (8%)	教育旅行受入れのほか、姉妹都市である喜界町の中高生による交流事業、地元企業主催による海外学生との交流事業の受入れ対応等でツーリズムでの交流人口は増加傾向であったが、熊本地震、硫黄山噴火、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により交流人口が減少した。新生活様式に合わせた受け入れ体制を整える必要がある。
【具体的な施策④】 他自治体等との連携による広域的なツーリズム促進機関の設置 検討と効果的かつ効果的な情報発信 【重要業績評価指標/KPI】 新規またはリニューアルしたイベントの開催数 令和元年度までに3以上	-	2 <small>アイワールド /屋台村</small>	1 <small>葉草の社</small>	1 <small>まちぶん</small>	-	4	3以上	達成	伊佐の魅力を知ってもらうことを目的に、新たな趣向をこらしたイベントやコンテンツを企画した。H30年度には市政10周年の記念事業として本市のイメージ及び知名度向上を目的に本市が舞台となった『舞臺』の小説を全国から募集し、大賞に輝いた『短編小説』の映画化を行い動画サイトに掲載し、19,247回のアクセスを獲得した。映画化に使用された地域資源等を今後さまざまな方法で活用していきたい。
【具体的な施策⑤】 インバウンド対応のためのWi-Fi環境の整備 【重要業績評価指標/KPI】 観光地や公共施設などのWi-Fi環境の整備箇所数 令和元年度までに33箇所	-	-	1箇所	-	18箇所	19箇所	33箇所	未達成 (58%)	当市の観光スポットである菅木の滝の交流拠点施設と、災害時の避難所、避難場所にもなっている校区コミュニティ施設等の公共施設にWi-Fiが整備された。

第1期まち・ひと・しごと創生総合戦略取組み報告

基本目標Ⅱ【教育環境の充実】(ひとづくり)	H27	H28	H29	H30	R元	達成度		評価
						結果 基準値/目標値	達成度	
【成果指標】 伊佐市内の高校への入学者数 令和元年度に170人 具体的な施策⑥ 高校生も総合戦略の企画などに参加する 【重要業績評価指標/KPI】 総合戦略の企画づくりなどに参加した高校生の延べ人数 令和元年度に500人	146人	173人 81、73、19	172人 84、66、22	151人 78、54、19	142人 61、48、33	142人 /年 170人 /年	未達成 (84%)	市内高校の生徒数の確保、維持することが厳しい状況が続いている。各高校の魅力化を図るため、本市が支援事業を継続している。なお一層の魅力化を図るため、より効果的な支援策の検討が求められる。
基本目標Ⅲ【6次産業化の推進】(しごとづくり)	H27	H28	H29	H30	R元	結果 基準値/目標値	達成度	評価
【成果指標】 6次産業化に取り組む事業者数 令和元年度に30者 具体的な施策⑦ 「ピザのまち」宣言による新たな伊佐ブランドの確立と農林産物の消費促進および窯作り、薪利用の推進による新産業の創出 【重要業績評価指標/KPI】 公共施設や事業所におけるピザ窯の設置数 令和元年度までに20箇所	2者	3者	2者	-	6者	13者 30者	未達成 (43%)	令和元年度に、伊佐市商工会が伊佐市産の農産物を使った加工品や飲食業の掘り起しと、特産品と観光の連携による観光地開発等、新たな伊佐ブランドの構築の可能性を探ることを目的として国の調査研究事業に取り組まれた。その後、6事業者が市の補助金を活用されて新商品を開発され、魅力ある商品づくりを継続されている。
具体的な施策⑧ 竹材を活用したビジネスの展開 【重要業績評価指標/KPI】 竹材の買い取り量 令和元年度に920t	1箇所 南中学校跡地	-	(7台) 移動式ピザ窯	-	-	1箇所 20箇所	未達成 (5%)	キャンプ場を除く、公共施設での薪を使用する火の取扱いが懸念され、H29年度にガスを使用する移動式の「ピザ窯」を一部のコミュニティで設置された。
	512t	361t	300t	404t	621t	621t 920t	未達成 (68%)	市内2箇所(向江地区、山野地区)のモデル竹林の整備を行い、竹林を使用した製品制作を行った。特に薫竹においては、山野地区のメンバーを中心に制作されて、地域の活性化に向けた取り組みを行うことができた。今もまた、放置竹林が多数存在することから、今後も竹林整備が必要である。竹林から算出されるタケノコや竹材を有効活用することで、竹林も維持され、竹林所有者の所得向上も期待できる。

第1期まち・ひと・しごと創生総合戦略取組み報告

基本目標Ⅲ【6次産業化の推進】(しごとづくり)	H27	H28	H29	H30	R元	結果	達成度	評価
						基準値/目標値		
具体的な施策⑨ 消費者を巻き込んだ新たな「伊佐米」のあり方の検討 【重要業績評価指標/KPI】 無(減)農薬のコメ作りへの取組み件数 令和元年度に10者	5者	9者	9者	5者	8者	8者 10者	未達成 (80%)	「環境保全型農業直接支払交付金」を活用し、化学肥料・化学合成農薬を低減する取組みをされている生産グループが増加しつつある。 「有機農業」を行う事で、生物多様性の保全と地球温暖化防止の効果が生まれている。 「伊佐米」のブランドは県内外に定着してきており、消費者へ「伊佐米」ブランドイメージのより一層の定着を図るため、伊佐市観光特産協会と協力し、新メニュー「伊佐米膳」を開発した。市内5店舗で提供を開始された。今後は、「伊佐米膳」と連携するなどして、「伊佐米」を含む本市特産品の魅力発信・開発の推進を図りたい。
						1箇所	2箇所	地域の人々が気軽に集い、認知症の人やその家族の悩みを共有し、お互いを理解し、地域で支え合うための通いの場である認知症カフェが開設された。認知症に対する理解と正しい知識の普及啓蒙に効果を得ている。地域に開かれたことと住民同士の交流により認知症の早期発見、早期発見につながっている。
具体的な施策⑩ コミュニティ拠点でのカフェ、食堂、食材販売など食関連の新しいサービス事業の展開と市内外への情報発信 【重要業績評価指標/KPI】 新サービス事業に取り組むコミュニティ拠点の数 令和元年度までに20箇所						4箇所 20箇所	未達成 (20%)	
						1箇所		
基本目標Ⅳ【健康づくりスポーツの推進】(まちづくり) 【成果指標】 目的を持ってスポーツに取り組んでいる市民の割合 令和元年度に31.0%	H27	H28	H29	H30	R元	結果 基準値/目標値 31.00%	未達成 (-)	本市におけるスポーツの振興と競技力向上に資するため、全国大会へ参加する市民に対して継続して支援を行った。 また、40歳から64歳までの健康維持を目的として毎週水曜日 忠元公園で30分程度以上の運動に対して、ポイントを付与し商品券に交換する取組みを実施し令和元年度までに208人が登録している。また65歳以上の健康づくりなどの活動に対しても、同様にポイントを付与し商品券に交換する取組みを実施し、登録者数は令和元年度までに296人で、自らの健康づくりや介護予防への取組みを進めることができた。
具体的な施策⑪ 伊佐市のシンボリックスポーツや文化(カヌー、ラグビー、バスケットボール、車椅子バスケット、剣道、ダンス)の拠点施設の整備 【重要業績評価指標/KPI】 スポーツや文化の拠点施設の整備(新築・リフォーム)数 令和元年度までに10箇所						3箇所 10箇所	未達成 (30%)	鹿児島県で37年振りに全国高校総体が開催され伊佐市ではカヌー・スプリント競技が開催された。地元高校生が全国から集まる高校生アスリートたちのサポートや運営の補助など、様々な場面で活躍がみられた。(選手・監督その他役員1,628人、観客数延べ2,600人) ※鹿児島県団体は2023年(令和5年)に延期となった。
	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所			参加者が相互の技術の交流を深め競技力向上を図り、川内川に親しむことで自然とのふれあいのなか、楽しく参加できるドラゴンフェスタが開催されている。市民、中高ボランティアの参加を募り、大会の運営実施を行っている。継続的に大会を運営するためにスタッフ養成・確保が必要である。 また、カヌー競技の台数は継続的に行われており、H30年度の九州カヌー・レーシングセンター(釜川カヌー競技場)新築に伴い、件数・人数ともに実績は年々増加している。
具体的な施策⑫ 伊佐市のシンボリックスポーツや文化の大会実施や合宿誘致、選手の強化・輩出、ボランティア等の育成 【重要業績評価指標/KPI】 スポーツ大会や合宿誘致、選手の強化・輩出、ボランティア等の育成事業の取組み件数 令和元年度までに200件						146件 200件	未達成 (73%)	
						39件		

第1期まち・ひと・しごと創生総合戦略取組み報告

基本目標Ⅳ【健幸づくりスポーツの推進】(まちづくり)	H27	H28	H29	H30	R元	結果		達成度	評価
						基準値/目標値	実績値		
具体的な施策⑬ スポーツやアウトドア、健康に関連した企業との連携、誘致 【重要業績評価指標/KPI】 連携、誘致する企業数 令和元年度までに10社			1社				1社	未達成 (10%)	地方創生推進交付金事業のDMO観光推進事業の活動の中で、アウトドアスポーツブランドの「モンベル」と連携し、「モンベル」のホームページで冒木の滝近くの「RVパーク伊佐曾木の滝」をPRできた。
							10社		
具体的な施策⑭ 子どもから高齢者まで取り組める市民健康体操の開発推進 【重要業績評価指標/KPI】 市民健康体操の周知活動の開催数 令和元年度に20回			3回	12回	4回		4回	未達成 (20%)	児童生徒の基礎体力向上を目的とした「体幹」を鍛える「KOBAS式トレーニング」法を高齢者や一般市民向けの健康づくりに寄与するために市報でトレーニング方法を連続掲載し、家庭などで、気軽に取り組める健康づくり推進が図られた。高齢者を対象に介護予防のためのダンス体操に取り組みを行うコミュニティ協議会に対して支援をし、地域の高齢者が身近な場所で開催し集まる機会を設けている。
							20回		
具体的な施策⑮ 若者への伝承を生きがいにしつつ健康づくりに取り組むかわっこいい高齢者を支援 【重要業績評価指標/KPI】 生きがいを持って生活している高齢者の割合 令和元年度に84.0%							72%	未達成 (86%)	「子どもや孫など家族との団らんのとき」、「趣味やスポーツ・レクリエーション」に集中しているとき」など生きがいを持って生活している高齢者の割合が高かった。また、「勤労世代健康づくりポイントアップ事業」、「高齢者元気度アップ・ポイント事業」に取り組み自らの健康づくりや介護予防への取組む市民も増加傾向である。
							84%		
基本目標Ⅴ【安心して子育てできるまち】(まちづくり)	H27	H28	H29	H30	R元	結果		達成度	評価
【成果指標】 出生数 平成28年から令和元年の4年間の合計で800人		186人	190人	171人	172人		690人	未達成 (86%)	全国的に平均初婚年齢、平均出産時年齢は年々上昇している。当市においても、年々晩婚化・非婚化が進んでいること、また当市の15歳～49歳女性人口は昭和80年に8,382人から平成27年には3,837人となっており30年間で激減している状況であることから、出生数は大きく回復せず200人前後で推移している状況である。
							800人		
具体的な施策⑯ 「いさえん」などの既存の出会いの場の創出事業を官民連携で推進することで拡充 【重要業績評価指標/KPI】 出会いの場の開催件数 令和元年度までに20回以上		7回	3回	3回	1回		14回	未達成 (70%)	継続的に街の魅力を活かした地域活性化や、出会いの場の提供を目的とした「いさえん」を実施して20代～40代の单身男女の出会いを応援している。また、商工会青年部主催の「屋台村」と連携し「婚活(出会い)」と「まちの賑わい作り」イベントを実施するなど出会いの場の創出と「屋台村」を通じて、「まちの賑わい」が生まれ出した。毎回、「いさえん実行委員会」が参加者に魅力的な内容となるような企画を検討して開催している。
							20回		

第1期まち・ひと・しごと創生総合戦略取組み報告

基本目標Ⅴ【安心して子育てできるまち】(まちづくり)	H27	H28	H29	H30	R元	結果	達成度	評価
						基準値/目標値		
具体的な施策⑦ 廃校を活用した子育て交流拠点施設(伊佐市総合交流拠点施設「e-Gaなんちゆう」)での伊佐独自の教育プログラム(出身者名人を活用したセミナー、和紙や薫作り、薪割り、ツリーハウスなどのものづくり体験、山林探検ツアーなど)の実施 【重要業績評価指標/KPI】 交流拠点施設での伊佐独自の教育プログラムの開催件数 令和元年度までに100回以上	-	25回	21回	10回	38回	94回	未達成 (94%)	伊佐市総合交流拠点施設は廃校となった大口南中学校校跡地を活用し、子育て支援、世代間及び地域間交流並びに地域産業の活性化を目的として運営されている。大口地区の子育て支援センターが連年で利用しており、子育て支援施設としての機能を果たしている。また、施設の一部を工芸、ものづくり分野における「地域おこし協力隊」のアトリエとして活用しており、特産品の開発やワークショップ等を開催するなど有効に活用されている。
						100回以上		
具体的な施策⑧ 医療・福祉・介護施設での体験授業やCCRCなどの整備を通じた介護人材の確保 ※CCRC・・・「Continuing Care Retirement Community」の略称で、高齢者が健康な段階で入居し、継続的なケアを受けながら終身で暮らすことができる生活共同体のこと。 【重要業績評価指標/KPI】 医療・介護分野の有効求人倍率 令和元年度までに均衡状態(倍率1.0)	1.73	2.46	2.36	2.18	2.2	2.2	未達成 (45%)	全国的にホームヘルパーなどの「訪問介護職」が深刻な人手不足に陥っている。働くヘルパーの平均年齢も高齢化している。このような状況下で、医療・介護分野での人手不足は生じている状況だが、伊佐市においては、介護支援専門員の雇用を目的に、新たに専門員を雇用した事業所に人件費の補助をする「介護人材確保等支援事業」を継続している。居宅介護支援事業所としての体制を維持することができ、介護サービス利用者者の計画策定業務が滞る状態を回避できている。
						1.0		
具体的な施策⑨ 空家等を活用した新婚家庭や新規就労者などの定住促進のための支援制度の拡充 【重要業績評価指標/KPI】 空家等に対する助成制度の利用件数 市街地商店街活性化事業(補助) 移住住み替え促進事業(補助) 起業チャレンジ支援事業(補助) 危険廃屋解体撤去(補助) (※参考)空き家バンク登録件数	2件 (空き店舗活用)	2件 (空き店舗活用)	3件 (空き店舗活用)	-	-	161件	達成	「空き家店舗活用事業」、「6次産業化支援事業」をH30年度から「起業チャレンジ支援事業」に1本化し、意欲のある企業者への支援をより特化したものとした。起業支援の一環として活用もされ、商店街の活性化にもなった。また、「空き家バンク」に登録された物件を購入されて、「移住住み替え促進事業(補助金)」を活用されて改修工事をすすめるケースも増加した。市ホームページにおいて広報することで、飛躍的に相談や登録の件数が増えてきており、空き家・空き店舗の有効活用に向けて一定の事業効果があると思われる。
	11件 (空き店舗活用)	22件 (空き店舗活用)	17件 (空き店舗活用)	29件 (空き店舗活用)	29件 (空き店舗活用)	50件		

川内川流域における「やさしいまち」DMO観光推進事業報告

【令和元年度】

◆ 地方創生推進交付金（国：50%、市町 50%）

川内川流域における「やさしいまち」DMO観光推進事業 <12,500 千円>

総事業費 25,000 千円（伊佐市 12,500 千円、さつま町 12,500 千円）※ 広域連携事業
： 負担（国 12,500 千円、伊佐市 6,250 千円、さつま町 6,250 千円）

- イベント経費 4,000 千円
 - ・ 伊佐・さつまの魅力を発信するイベント：1,944 千円
伊佐・さつまの特産品の販売、PRをする物産イベント、伊佐さつまのファン獲得のためのイベント、薬草シンポジウムの誘致、やさしい取り組みの定着と普及のためのイベント、川内川流域を中心とした観光商品のイベント
 - ・ 地域産業活性化推進につながる各種イベント：2,056 千円
H31 年度までに推進してきた商品開発等の実績を踏まえた B to B マッチングを推進するイベント、野草薬草の取り組み、ファン獲得のための取り組み、事業者交流会など、伊佐・さつまや他の市町村・団体と交流するイベント
- プロモーション経費 5,300 千円
 - ・ 各種ツーリズムの開発・プロモーション経費：2,500 千円
伊佐・さつまの特産品の販売、PRをする物産イベント、伊佐・さつまのファン獲得のためのイベント、薬草シンポジウムの誘致など、やさしい取り組みの定着と普及のためのイベント、川内川流域を中心とした観光商品の体験イベント
 - ・ 交流人口・宿泊者数増加に向けた施策の開発と実施に係る経費：1,272 千円
ファンクラブシステムの構築・推進
 - ・ サイト運営管理費 1,528 千円
- 人材育成セミナー経費 4,500 千円
 - ・ 6 次産業化の推進 1,992 千円
 - ・ やさしい取り組みの実践・支援 1,416 千円
 - ・ 起業・創業の相談・支援 1,092 千円
- 調査・コンサルティング経費 3,000 千円
 - ・ 川内川流域の観光マーケティング調査 1,900 千円
 - ・ コンサルティング業務委託 1,100 千円
- 上記事業実施のための DMO スタッフ人件費 6,000 千円
- DMO 事務所運営経費 2,200 千円

曾木の滝・大鶴湖・川内川を活用した自然体験型DMO観光推進事業

実績報告書

株式会社やさしいまち

記載方法

実施日 実施内容（実施場所）

※：要素事業名

（ただし、1事業につき、複数の目的を含む場合は、事業費対象の枠にかかわらず目的となる名目を記載している。なお、要素事業を行っているが費用が発生していない、あるいは一部に限定される場合もあるが表記に区別をしていない）

記

令和1年5月30日 野草薬草館オープン（伊佐市）

野草薬草文化の情報発信などの拠点となる野草薬草館を曾木の滝公園内にオープンした。本施設は「世界一やさしいまち」づくりの中の“カラダにやさしい取り組み”として野草薬草を用いた健康まちづくり構想の一端を担う施設である。

野草薬草を実際に見て学ぶ「伊佐薬草の杜」や、野草薬草という資源を活かした特産品づくりなど、これまで様々な取り組みや構想を掲げてきたが、この施設がそれらの中心となり、『知る・学ぶ・つくる』という役割を担う。今回は、本施設のコンテンツ作成やプロモーションを実施した。

※やさしい取り組みの実践・支援

※各種ツーリズムの開発・プロモーション経費

令和1年6月2日 第13回 川内川鮎まつり参加（さつま町）

川内川の生きもの・めぐみを知ってもらい、川内川の天然資源のひとつである鮎を、広く町内外にPRするためのイベントとして実施された。「川内川水系かわまちづくり」の取り組みの関係者、これまで川内川を活かしたまちづくりに関わった鶴田ダム管理事務所などの関係者や様々な方々との交流を通して、さつま町の豊かな資源を活かしたまちづくり、そして“環境にやさしい”取り組みについて意見交換をして、有意義な関係構築の場とした。

※各種ツーリズムの開発・プロモーション経費

※地域産業活性化推進につながる各種イベント

令和1年7月24日 第4回年商10億を叶える経営塾（伊佐市）

年商10億を叶える経営塾の全4回シリーズの最終4回目を「稼ぐために（Passion）」というテーマで実施した。これまで、第1回「起業・事業課の出発点を考える」、第2回「実現に向けて具体的にどうするか」、第3回「利益計画を考える」というテーマで、続けてきて、今回最終回となる経営塾を実施した。

西日本最大の食の展示会「FABEX関西2019」の出展案内に始まり、それを目標とした商品開発計画などについて学んだ。約20名の参加者と多くの対話をしながら、多くの学びが得られた会となった。

※起業、創業の相談や支援
※6次産業化の推進

令和1年7月30日 福岡旅行商談会（福岡市）

旅行会社7社と商談会を行った。福岡県福岡事務所と合流し、伊佐市・さつま町の魅力をプロモートすると同時に、エージェンツ側のニーズを聞きながら提案するなど、各社の特色に合わせて売り込みを行った。7社それぞれの特色があり、それに合わせた提案を行うことで、今後の集客につながるような手ごたえを得た。

※各種ツーリズムの開発・プロモーション経費

令和1年8月23日～25日 Touch The Japan in 台湾 出展（台北市）

台湾にて、伊佐市や伊佐市の特産品、大口酒造の商品、やさしいまち（伊佐市・さつま町）のPRのために、イベントに出展した。伊佐市・さつま町へ訪れる外国人、いわゆるインバウンドの受入れ増や、商品の海外への販路拡大をめざし、海外向けPRを行うべく、Touch The Japanに参加した。本イベントは5回目の開催を迎え、日本に興味のある多くの台湾人向けにプロモーションするには格好の機会であった。

会場の雰囲気や盛り上がりも非常に大きく、伊佐市・さつま町を台湾の方々に広くプロモーションできた非常に良い機会となった。

※各種ツーリズムの開発・プロモーション経費

令和1年8月25日～26日 島原野草健合同会社FAMトリップ実施、視察受入（伊佐市）

「箸休めの宿 とまり木」を活用した観光ツアー運用に向けた招待旅行（モニター旅行、FAM トリップ）として、野草薬草をつかったまちおこしの先行例でもある島原野草健合同会社の視察旅行を受け入れた。今回の旅行商品だけでなく、普段の取り組みに関して意見交換を深め、観光コンテンツの充実や取り組みの推進を図った。また、同時に非常に大きな宣伝となった機会であった。

※各種ツーリズムの開発・プロモーション経費
※交流人口・宿泊者増加にむけた施策の開発と実施に係る経費
※やさしい取り組みの実践・支援

令和1年9月14日 鹿児島ふるさとファン感謝デーin福岡天神参加（福岡市）

伊佐市の特産品や伊佐市およびさつま町のPRのために、福岡で開催されたイベント「鹿児島ふるさとファン感謝デー」に参加した。本イベントでは、特産品を売り切る施策や、アイドルを使ったプロモーション戦略などを実践し、効果的な宣伝活動を実施した。

※各種ツーリズムの開発・プロモーション経費
※6次産業化の推進

令和1年10月12日～13日 全国薬草シンポジウム2019視察（飛騨市）

野草薬草をつかった健康まちづくり推進のために、本シンポジウムに参加した。

この取り組みを進めるにあたり、先行して長年「薬草をつかった健康まちづくり」をしている飛騨市と情報交換し、また全国のイベントとして8回目を数える本イベントから学ぶことを目的とした視察である。本イベントでは多くの方々と交流を図り、その結果を今後の伊佐・さつまのイベントや、まちづくりに活かしていく。

※やさしい取り組みの実践・支援

令和1年11月23日 第9回奥薩摩「鶴田ダム」ウォーキング大会参加（さつま町）

ウォーキング大会・さつま町・鶴田ダムをPRするとともに、曾木発電所遺構や、伊佐薬草の杜をコースに組み込み、健康まちづくりの推進を図った。約300名が参加し、野草薬草に関して説明を聞き、実際に見た野草の薬効や取り入れ方を学ぶなど、運動+食事という健康キーワードの本取り組みに対し非常に好評を得た。

※各種ツーリズムの開発・プロモーション経費
※伊佐・さつまの魅力を発信するイベント
※やさしい取り組みの実践・支援

令和1年11月27日 野草庵おばあちゃん家上棟式（伊佐市）

野草薬草をつかった健康まちづくり構想の一つを担う当レストランのオープンに向けて準備を進めてきており、上棟式をとり行った。これは株式会社やさしいまちが進めてきた取組みを踏まえ、曾木の滝公園の各店舗を運営するセルビスグループが実施したものである。つまり、やさしいまちの働きかけが、民間企業の出資を促し、ランドデザインに沿った観光地づくりがハード面でも進んだ実績の一つである。

今後、本レストランオープンに向けて、コンテンツの作成を進めていく予定である。

※補助金の支出はない

令和1年12月11日 えびの市役所視察受入（伊佐市）

野草薬草をつかった健康まちづくりの連携や、やさしいまち（伊佐市・さつま町）のPR、今後の関係構築のために、えびの市役所畜産農政課の視察受入と交流を行った。
本視察で、互いの自治体の状況やそれに対するアプローチに関する情報交換、今後の互いの宣伝や送客集客の連携など、互恵関係の構築を進めた。

※各種ツーリズムの開発・プロモーション経費
※やさしい取り組みの実践・支援
※交流人口・宿泊者増加にむけた施策の開発と実施に係る経費

令和2年1月11日～12日 ラジオでハッピー20！出展（福岡市）

伊佐市・さつま町、やさしいまちのPR、若手事業者の商品開発およびプロモーションのために、ラジオ局3社合同のイベントに出展した。
本イベントは、福岡市博多の商業施設「ソラリアプラザ」にて、3連休の人通りの多い期間と場所で、伊佐市・さつま町のPRを行うものであった。我々は、その機会をこれまで新たに開発した商品がどのように受け入れられるのか、伊佐市・さつま町の商品は、福岡の客層にどのように反応されるのかを学ぶ機会として出展した。

※6次産業化の推進
※起業・創業の相談・支援
※地域産業活性化推進につながる各種イベント

令和2年1月20日 野草のお菓子作り体験実施（伊佐市）

今後の体験型メニュー作成と、今後を担う伊佐の子ども達に野草薬草文化を広げるために、学童の子ども達向けに野草のお菓子作り体験を野草薬草館で実施した。

※やさしい取り組みの実践・支援

令和2年2月3日 第6回世界一のやさしい市（大阪府堺市）

伊佐市・さつま町のPR、特産品の販売、事業者の育成などを目的に第6回目のイベントを実施した。ふるさと納税の募集では、伊佐市 330件 4,347,000円、さつま町 259件 3,233,000円を集めた。また、多くの事業者との勉強会・意見交換会を通して、まちおこしの協力関係の構築や、今後の方針の共有など、大いに連携の促進を図ることができた。

※地域産業活性化推進につながる事業者交流会等の各種イベント
※各種ツーリズムの開発・プロモーション
※起業・創業の相談・支援

令和2年2月6日 かがしまスポーツ合宿セミナー（大阪府大阪市）

伊佐市にスポーツ合宿を呼び込むために、本イベントへ参加し、各団体と商談会を行った。学生、社会人のスポーツチーム5団体から、スポーツ合宿で求めるものについてヒアリングを行い、伊佐市の魅力と課題に努めた。また同時に、今後の集客のために旅行会社と打合せを実施した。今後のスポーツにおいて、特に伊佐市についてはカヌーが観光資源として魅力的であり、同時に活かしきれていない資源でもあるので、今後対策を進めたい。

※各種ツーリズムの開発・プロモーション

令和2年2月13日 月刊九州王国取材（伊佐市）

月刊九州王国で、伊佐市・さつま町の野草薬草の取り組みについて、特集記事を組み、広く周知を図るために、取材を行った。

月刊九州王国は、九州一円で5万部発行されており、「九州の歴史・文化・食・観光・環境・健康など、九州に存在する豊かな資源を積極的に取り上げて、九州全体を盛り上げていく」という目的で作られている媒体である。

記事には、伊佐市野草研究会の取り組みや、伊佐薬草の杜、野草薬草館などが掲載されているほか、代表の坂元正照のインタビュー記事も掲載され、伊佐市・さつま町で行われたこれまでの取り組みや、今後の計画なども紹介されている。そのほか、曾木の滝公園や、曾木発電所遺構などの観光地についても紹介されており、九州一円に組み込みやこの地域をアピールする良い機会となった。

※各種ツーリズムの開発・プロモーション

※やさしい取り組みの実践・支援

令和2年2月23日 さつま永野ウォーキング大会協力（さつま町）

第15回さつま永野ウォーキング大会において、観音滝公園をコースとして参加者に利用してもらうために、開放し、宣伝活動を行った。

観音滝公園は、約1年前より休園状態であったが、やさしいまちがさつま町より譲渡を受け、今後運営することとなる施設である。

休園期間が長くなればなるほど、今後の集客に影響するため、この機会に利用していただき、今後さつま町の一つの大きな観光資源として運用していくための宣伝活動を行った。

また、本イベントを売り出すことも併せて行うために、プレスリリースを行った。

※伊佐・さつまの魅力を発信するイベント

※各種ツーリズムの開発・プロモーション

令和2年3月20日～22日 第3回野草薬草フェスティバル（伊佐市）

伊佐市とさつま町のPR、体験型の旅行プランの提案、野草薬草の取り組みを体現しアピールするためのイベントを企画した。

しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、中止となった。

※伊佐・さつまの魅力を発信するイベント
※各種ツーリズムの開発・プロモーション
※交流人口・宿泊者数増加にむけた施策の開発と実施
※やさしい取り組みの実践・支援

令和2年3月28日～29日 モンベルフレンドフェア大阪（大阪府大阪市）

アウトドアを好む層への自然体験型の観光PRや、特産品などの物販を通して、プロモーションを行うために、当イベントへの出展準備を行った。

しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、中止となった。

※モンベルフレンドエリア年会費
（中止により費用負担なし）

令和1年4月～令和2年3月31日 セルビスグループ共栄会所属の経営者による新規事業開発委員会活動（大阪府堺市、伊佐市、さつま町）

毎月委員会を開催し、伊佐・さつまの地域経済活性化に向けた対策について協議している。伊佐・さつまの若手事業者に対するコンサルティングなどの指導や、市場調査（全国各地の百貨店等のバイヤー、地方の生産メーカー、鹿児島県の加工場、都城の加工施設、熊本の阿蘇ファームヴィレッジなど多数）、商品開発のアドバイスを随時実施している。また、やさしいまちの活動全般に対する第三者評価を行い、PDCAサイクルを進める機能として活動している。

今期間中に実施した例として、曾木の滝～大鶴湖グランドデザインに基づき、曾木の滝公園内の店舗のリニューアル（方針・ブランド変更）や、曾木の滝公園第二駐車場裏の森の活用についての開発計画を作成し、提案を行った。

まず、店舗のリニューアルは、これまで「福姫かっぱ（かっぱ茶屋）」として運営していた喫茶店を、ライトなアウトドア向けの飲食店・雑貨店「ピクニックマルシェ」として令和1年10月に改装を実施した。「かっぱ」以外に特徴がなく、他の飲食店を競合してしまっていた店舗を、他の飲食店＋アルファとして寄ってもらえるようにテコ入れした。これにより、来訪者1人あたりの公園内来訪店舗数と、消費額の増加を見込む。ただし、リニューアルに本補助金の使用はない。

ブン）

そして、森の活用については、自然を活かすこと、そして“健康”“やさしい”というキーワードから、アスレチックを使った遊び場の運営をしている会社と組んで、ヘルスツーリズムの提案を行った。

※6次産業化の推進
※やさしい取り組みの実践支援

※起業・創業の相談・支援
※地域産業活性化推進につながる事業者交流会等の各種イベント
※交流人口・宿泊者増加にむけた施策の開発と実施に係る経費

令和1年4月～令和2年3月31日 (株) やさしいまちのウェブサイト運営管理
(株) やさしいまちのウェブサイトの機能を随時更新管理し、また年間のレンタルサーバーの契約更新を含む運営管理、保守管理を行った。また新たにやさしいまちのオンラインショップを開設し、やさしいまちの取り組みの情報発信にあわせて、野草薬草商品の購入というコンバージョンを取りにいくのである。
また、コンテンツを充実させることにより、アクセスを増やすよう対策した。更にSNSとの連動およびアクセスについても改善した。<https://yasashimachi.co.jp/>

※サイト運営管理費

令和2年11月12日 ウェルネス鹿児島モニターツアー実施(伊佐市)
このツアーは、鹿児島県が主催したモニターツアーの第1日目の工程に、私たちが取り組んできた野草薬草のウェルネスツーリズムメニューを組み込んだものである。これまでの取り組みを形にした成果であり、今回のツアー結果を活かして、今後更に旅行商品化に向けて取り組みを加速させていく予定である。

※各種ツーリズムの開発・プロモーション
※やさしい取り組みの実践・支援

令和2年11月21日 野草薬草フェア(伊佐市)
前年度の令和2年3月に実施予定であった「第3回野草薬草フェスティバル」が新型コロナウイルス感染拡大を受けて中止となり、その代替イベントとして「野草薬草フェア」を実施した。

ワークショップは、コロナ禍において、少人数に限定し、また一切のプロモーション(事前集客)をせずに開催したが、5名の参加があり、いずれも県外(福岡県)からの参加であった。先のウェルネス鹿児島モニターツアー実施を踏まえ、食事や案内などをブラッシュアップした内容として実施した。非常に満足度が高く今後リピーター率の高いコンテンツとして今後も期待される。

今回はコロナ禍にあって、もみじ祭りが中止となった。しかし、例年のもみじ祭り目的の観光客や、3連休ということもあり多くの観光客が予想されるため、今後の観光地経営という観点からも、ネガティブプロモーションにならないように、満足度が得られるコンテンツを展開する必要があったため、野草薬草をつかった料理など多くの屋台を出して迎えた。結果的には例年以上の観光客数が訪れ、大盛況であった。

※伊佐・さつまの魅力を発信するイベント
※各種ツーリズムの開発・プロモーション

※交流人口・宿泊者数増加にむけた施策の開発と実施
※やさしい取り組みの実践・支援

令和2年11月21日～令和3年3月31日 曾木の滝イルミネーション（伊佐市）

本イベントは、前年度の令和2年3月に実施予定であった「第3回野草薬草フェスティバル」が新型コロナウイルス感染拡大を受けて中止となったことで、その代替イベントとして実施したものである。当初フェスティバル内で実施予定であった「デジタル掛け軸」は、屋外ではあるものの、限定された短時間内に多くの人が集まる（密状態）可能性を多分に含んでおり、コロナ禍において適切ではないと判断した。

そこで、代替イベントは、ウィズコロナ・アフターコロナ期に実施可能な観光コンテンツであるべきと考え、次の3点からイルミネーション事業を実施することに決定した。

- ① 当地域の課題として、圧倒的に不足している夜間滞在人口の増加に資する取り組みとして、「ナイトタイムエコノミー」事業の推進をする。
- ② 集客時間の分散（イベント時間を長くする）
- ③ 来場機会の分散（イベント実施期間の長期化）

結果として、これまでは曾木の滝公園には、夕方以降は真っ暗で、車は基本的にほぼ入ってこない状態だったが、イルミネーションを始めてからは、来園者数は増えている。

「滝のや（店舗）」も、これまでは夕方前に閉めていたが、20時頃まで開けるようになるなど、今までにない来客パターンで、ナイトタイムエコノミーの創出に寄与していることが伺える。

※伊佐・さつまの魅力を発信するイベント

※各種ツーリズムの開発・プロモーション

※交流人口・宿泊者数増加にむけた施策の開発と実施

令和3年3月2日～令和3年3月30日 野草薬草館のワークショップ（伊佐市）

前年度の令和2年3月に実施予定であった「第3回野草薬草フェスティバル」が新型コロナウイルス感染拡大を受けて中止となり、その代替イベントとしてワークショップを実施した。ワークショップは、コロナ禍であることを考慮して、少人数に限定し、かつ回数を増やして機会を分散させることで、密になるリスクを下げながら実施するなどウィズコロナ・アフターコロナ期の観光の形を意識した。

計4回の実施において、すでにリピーターも出ており、またほとんどが県外客であった。

※伊佐・さつまの魅力を発信するイベント

※各種ツーリズムの開発・プロモーション

※交流人口・宿泊者数増加にむけた施策の開発と実施

※やさしい取り組みの実践・支援

以上

伊佐市まち・ひと・しごと創生総合戦略の見直しポイント

基本目標	第1期	第2期
基本目標1 ひとの流れづくり	都市部から地方へのひとの流れをつくるにあたり、まずは伊佐の知名度向上を図り、観光などにより訪れていただくことが肝要として「まち」のPRと交流人口の増加を重点的に進めた。	交流人口の増加は、「まち」のイメージアップ「人材」として継続して「まち」に関わる関係づくりが必要となるため、引き続き交流人口の増加を図りながら、関係人口の創出・拡大や移住・定住の促進について重点的に取り組むこととする。
基本目標2 ひとづくり	若年層の転出超過が大きな課題となっているため、地域人材の育成を図り、若者の流出抑制に取り組むこととし、特に高校生の地域づくりへの参画や特色ある高校づくりを推進した。	地域の将来を支える人材育成の要となる高等学校として引き続き地域と一体となって機能強化に努める。
基本目標3 しごとづくり	地域産業の成長による雇用創出をねらい、体験型観光や食（農林業）を基軸として6次産業化や交流ビジネスを推進し、交流人口の増加による関連する産業の振興を図った。	地域資源を多様な分野で活用し、連関して商品・サービスの提供を行う「地域の6次産業化」といった視点が必要となる。また、全国的な労働力不足の状況での産業振興、日常生活サービスの維持・確保、雇用のミスマッチ解消などの現実的な課題に直面しているため、スモールビジネス、多業化、継業、人材誘致など多様な働き方などの視点により課題解決にあたる。
基本目標4 まちづくり	<p>①「健康づくりスポーツの推進」を掲げ、カヌー等のまちのシンボリックなスポーツの振興や、あらゆる市民が生きがいをもってスポーツや健康づくりに取り組むとしていました。</p> <p>②「安心して子育てできるまち」を掲げ、出会いの場の住まいや起業の支援などにより、出生数の増加に取り組んだ。</p>	<p>①スポーツのみならず、文化芸術や地域文化なども含めて、生きがいをもって地域社会に関わる健幸づくりを進める。また、人口減少下でのまちや集落の機能維持、まちの魅力づくり、安心安全な暮らしの確保といった視点で施策の展開を図る。</p> <p>②出生数の増加のためには、若者の転出超過の抑制が最も効果的な方法であるため、妊娠・出産・子育て支援や、女性の社会参画支援、地域ぐるみの子育て、地域教育などの要素も含め、若者の流出抑制とともに出生数の増加に努める。</p>

第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略取組状況

基本目標1	【目標数値】			現状値 (R2)
	指標の対象	基準値(年度)	目標値	
稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする (ひとの流れづくり)	1人当たりの市民所得	238万円【H28】	250万円【R3】	244万円【H30】
	市内総生産額(宿泊・サービス業)	1,487万円【H28】	1,500百万【R3】	1,472万円【H30】
具体的な施策	重要業績評価指標(KPI)			現状値 (R2)
(1) 地域資源の多面的活用と生産性向上	指標の対象	基準値(年度)	目標値	
①地域の6次産業化	ふるさと納税返礼品の産品数	223品【R元】	260品【R6】	259品
	宿泊客数(キャンプ場含む)	26,711人【H30】	30,000人/年【R6】	28,967人
②持続的な農林地の有効活用	認定農家の平均水稲栽培面積	6.8ha【R元】	7.9ha【R6】	6.4ha
	新規就農者数	-	計30人【R2~R6】	2名(33名)
③地域の魅力のブランド化	ふるさと納税返礼品の売上金	40,800千円【R元見込】	47,000千円【R6】	382,987千円
	大学・専門家等との連携件数	-	計10件【R2~R6】	-
(2) 地域内サービスの維持・創出	第3次産業の市内総生産額	512.4億円【H28】	513億円【R3】	514億円【H30】
	起業等支援制度の利用件数	-	計10件【R2~R6】	7
(3) 就業環境の確保と多様な働き方	立地企業の従業員数(4.1現在)	2,128【R元】	2,128【R6】	2,097
	シルバー人材センター会員数	255人【H30】	349人【R6】	238人
(4) 地域産業の担い手の確保	企業・事業者合同説明会参加者数	30人【R元】	計150人【R2~R6】	30人
	有効求人倍率	1.07【R元】	1.0【R6】	0.99
基本目標2	【目標数値】			現状値 (R2)
	指標の対象	基準値(年度)	目標値	
都市部とのつながりを築き、伊佐への新しい流れをつくる (ひとづくり)	社会動態(社会増減数)	△169人【H30】	△100人【R5】	△171人【R元】
	生産年齢人口比率	48.4%【R元.10】	44.4%【R6.10】	47.7%
具体的な施策	重要業績評価指標(KPI)			現状値 (R2)
(1) 伊佐暮らしの移住の推進	指標の対象	基準値(年度)	目標値	
①若い世代の移住	支援制度を利用した若者移住者数	-	計20人【R2~R6】	10人
	地域おこし協力隊員の新規受入数	-	計12人【R2~R6】	1人
②シニア世代の移住	支援制度を利用したシニア移住者数	-	計50人【R2~R6】	0人
	農地付き空き家物件の成約件数	-	計10人【R2~R6】	0人
(2) ふるさと回帰・定着の推進				
①若者のUターン促進	40歳未満のUターン数	-	計50人【R2~R6】	41人
	高校生の地域づくりへの参画件数	-	計25件【R2~R6】	14件
②地元高校の魅力化・定着	市内高校の地元進学率	50.50%【R2】	60.00%【R6】	57.36%
(3) 地域とふれあう多様な交流の促進	地域外住民との交流事業の件数	-	計25件【R2~R6】	-
(4) 都市部とのつながりの構築	ふるさと会等の会員数	3,344人【R元】	3,344人【R6】	3,344人
	ふるさと納税等の寄付者数	5,340件【R元】	6,150件【R6】	23,507件

第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略取組状況

基本目標3	【目標数値】			現状値 (R2)	
	指標の対象	基準値(年度)	目標値		
結婚・子育ての希望をかなえる (しごとづくり)	総人口に対する出生数の割合	0.65%【H30】	0.68%【R6】	0.68%【R元】	
具体的な施策	重要業績評価指標(KPI)			現状値 (R2)	
	指標の対象	基準値(年度)	目標値		
(1) 結婚・出産・子育ての支援	子育て支援センター利用人数	延12,011人【H30】	延12,011人【R6】	8,105人	
	ファミリー・サポート・センター会員	72人【H30】	72人【R6】	99人	
(2) 仕事と子育ての両立	保育所等の待機児童数	0【R元】	0【R6】	0	
	放課後児童クラブの待機児童数	0【R元】	0【R6】	0	
基本目標4	【目標数値】			現状値 (R2)	
	指標の対象	基準値(年度)	目標値		
ひとが集う、安心して暮らせる魅力的な地域をつくる (まちづくり)	住みよさランキング(偏差値)	51.12	51.12	50.18	
具体的な施策	重要業績評価指標(KPI)			現状値 (R2)	
	指標の対象	基準値(年度)	目標値		
(1) 持続可能な生活空間の形成	①まちの機能確保と小さな拠点づくり	公共施設等の再配置方針の決定	-	決定【R2】	-
		次世代通信関連の構想の策定	-	策定【R3】	-
	②集落生活圏の活力づくり	協働の仕組みづくり促進事業(ワンステップ)採択件数	-	計15件【R2~R6】	-
		地域の日常生活支援サービス取組件数	-	計4件【R2~R6】	-
(2) 魅力ある伊佐暮らしの実現	①健幸まちづくりの推進	ふれあい講座受講者数	376人【R元】	450人【R6】	168人
		コミュニティスポーツクラブ会員数	42人【R元】	100人【R6】	42人
	②固有の地域文化の継承	ふるさと検定の合格割合(小学生)	77%【R元】	85%【R6】	79%
		食文化関連の体験講座等の開催数	-	25回【R2~R6】	1回
(3) 安心な暮らしの環境の確保	①医療・福祉サービス等の機能の充実	人口一人当たり医師数	23人【R元】	23人【R6】	22人
		休日・夜間診療関連事業(在宅当番・病院群輪番)	実施【R元】	継続【R6】	継続
	②地域防災の確保	避難所の耐震化整備率	70.1%【R元】	100%【R6】	84.40%
		危険廃屋の解体・撤去助成件数	29件【H30】	計100件【R2~R6】	23件

令和3年度第2回伊佐市総合振興計画審議会 要旨

日時：令和3年10月7日（木）13：30分～15：45分

場所：大口ふれあいセンター3階 多目的ホール

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 辞令交付
- 4 議事

- (1) 第1期まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証及び意見交換
・第1期まち・ひと・しごと創生総合戦略取組み報告

企画政策課説明：

<審議（質疑応答を含む）>

基本目標Ⅰ【交流人口の増加から定住人口を増やす】について

委員：次の計画を策定する時には、この審議会で話し合われた意見を活かしていただけるということで理解してよろしいか。

市：そのとおりである。

委員：成果指標の結果については未達成が多い。この結果について今後はそれぞれの担当者が達成に向けて頑張ってもらいたい。

市：計画策定時に、目標達成に向けてみんなで頑張っていこうという動機づけの数値目標となっているものもあり、成果が未達成となっている指標が多い原因の一つと言える。しかしながら、目標達成に向けて各課力を合わせて頑張って取り組んでいきたい。

委員：次期計画策定に向けての目標設定については、実現可能な指標なのか検証する必要がある。しかしながら数値目標は未達成であったが、この取組みを実施したことでこの部分では効果があったというようなものが伝われば良いと思うので、そのような事例があれば紹介して欲しい。

市：一例であるが、伊佐市では地域おこし協力隊を導入している。その協力隊員の一隊員の活動で、伊佐の自然を活かしながらテントサウナを楽しむというものが、先日、テレビでも紹介され、伊佐の新たな魅力が生まれていると思う。

委員：具体的な施策3番目のグリーンツーリズムの導入についてであるが、熊本地震の関係で新幹線が通らなくなり、また受け入れる家族も減ってきた状況である。ただ、漁村などの海辺の地域の受け入れはそう減っていないと聞いている。学校側は、一度来て印象が良ければ、また来るのではないかと私は思っている。そういうところの反省をしながら、伊佐の魅力をもっともっと出していかないといけないのではないかと。伊佐を学校にPRして、例えば教育旅行の中でナンコ大会をすとかみんなで盛り上げて

いくような話し合いというのを徹底的にやっていかなければならないと思ったところである。

市：熊本地震、コロナの影響で年々減っている状況である。受け入れ家庭も高齢化で減少しているのでコロナが終息したら新会員を募り、現会員や新会員の交流を図りながら事業を進めていきたい。

委員：減少傾向となった原因を検証する必要がある。これまで修学旅行に来ていただいた学校などに聞き取りをするなどして、何が減少の要因となったかを分析する必要があると思う。

委員：私も4、5年教育旅行の学生を受け入れた。学生が帰った後も、学生と手紙の交換が継続されて楽しかった思い出もある。しかし、ある受け入れ家庭では食事のメニュー検討や準備が大変であることを聞いたので受け入れ前に食事のメニューを申し合わせするなどして受け入れ家庭の負担軽減を検討したら良いのではないかと思う。

委員：具体的な施策5番目について、残りの施設の整備、また、この33箇所が適切なのかも含めて次期計画でも検討していただきたいと思う。

委員：wi-fi環境の整備は外国人観光客向けとなっているがコンテンツはどうなっているのかまた後からで良いので教えていただきたいと思う。

基本目標Ⅱ【教育環境の充実】について

委員：市が学力向上を目指して「土曜いきいき講座」を実施されている。塾に行きたくても家庭的に行けない子もあるかと思う。小学生でも英検を受検したい児童もいると思う。英検を受検したい小学生にも支援をしていただけたらいいなと思う。

市：検討させて欲しい。

委員：小学生、中学生への支援も重要となるのではないかと思う。中学生から高校へ進学するときに市外へ出てしまう状況なので、できることなら早い段階での支援も必要かと思うし、また地域の魅力を子ども達に発信することが非常に重要ではないかと思う。他市から伊佐市へ移住したい、伊佐市で教育を受けさせたいということで来られる方がどうして伊佐市へ移住しようとしたのか、伊佐市のどういう教育に魅力を感じられたのか知りたい。その辺りが政策のヒントとなりそうな気がするので、定住して来られた方に差し障りのない範囲で話を伺える機会を事務局で設けていただけたらと思う。

基本目標Ⅲ【6次産業化の推進】について

委員：認知症の見守りについては、地域では近所の方が見守っている状況である。指標の結果は未達成であるが、数値以上に地域の方々が高齢の方を見守りされている状況で有り、良い結果が出ているのではないかと感じている。

市：市としても包括ケアシステムが構築されている状況であり、民生委員さんをはじめとして、認知症の方の見守りについては、各事業所にもお願いしている。銀行などにもお願いをして、ちょっと様子がおかしいなと思われる方があれば警察へ連絡していた

だくような体制づくりは出来ている状況である。しかしながら具体的施策 10 番目の指標の趣旨とは異なっているため未達成としていることはご了承いただきたいと思う。

委員：6次産業化について取り組む事業者数は生産者が13者となっているがこの13者は農業者なのか。

市：地域の6次産業化ということであって、この13者が農業者ということではない。

委員：施策の中で達成状況にばらつきがあるように見える。いざ取り組んでみたが、5年間やって難しいところは達成が難しいということ。上手くいった事業といかなかった事業の分析が必要かと思う。

基本目標Ⅳ【健康づくりスポーツの推進】について

委員：最近、テレビや新聞、市報を見て思うのが、伊佐の広報の仕方が良い方になってきたと感じる。というのは災害があった時に、災害状況だけでなく、災害前の景色、災害後の景色を映されていてとても良く変わってきていると思う。

委員：具体的な施策14番目について、ダンベル体操については、大口コミュニティ協議会で全会員50人いる中で月に2回30名ずつ参加している。また、脳トレでマージャンを行っていて、毎月20名ほど参加している。さらに、パターゴルフもしたりして、高齢者の健康づくりとして活動をしている。

市：伊佐市のコミュニティ協議会は非常に活発に活動いただいている。今後とも協力いただきたい。

基本目標Ⅴ【安心して子育てできるまち】について

委員：具体的な施策16番目について、高収入でも結婚しない男性が増えている理由の根本は男性の幼少期の母親の養育態度が関係していると本で読んだことがある。小さい頃からそのまま大人になっていて、身の回りの世話は、母親がしてくれる。今度は、母親が高齢となって、介護が必要となった時に結婚しようとしても介護がぶら下がっている男性に結婚したい女性がない状況となってしまっているケースが多いようだ。結婚しない原因は、ひとりが気楽だからとか、お金を全部自分で使えるからとかあるかもしれないが、そのような理由もあるようだ。指宿市がパートナーシップ制度を導入していたが、伊佐でも表面には出てはいないけど、もしかしたら伊佐にもいらっしやるかもしれないから導入を考えておく必要があるのではないかと思う。

委員：今のご意見の関連になるが、今は結婚イコール子供を産んで子育てという時代ではなくて、多様な生き方が出来るといった時代なのに結婚ばかりに目を向けるのはいかなものかなと思う。そういう時にパートナーシップ制度を導入して、伊佐は「やさしいまち」と謳っているのだからそういう方々を受け入れていけば人口も増加するのではないかと思うのでそういうことも考えて欲しいなと思っている。

市：男女共同参画基本計画を昨年、伊佐市で作成したが、そのアンケートの中で、「自分の性について悩んだことがありますか」という質問について、悩んでいると回答をされた方々が少なからずいらっしやった。多様な生き方、いろんな考え方、価値観があるということを踏まえたうえで考えていかなければならない難しい問題であると認識を新たにしたところだ。

委員：平成 26 年の計画策定時には成果指標を出生数とされ、計画策定時はこれで良かったと思うが、次の計画では定住人口と絡めていくような形での成果指標としたら良いのではないかと思う。パートナーシップ制度などの多様性という問題をしっかりと受け止めて、地方であってもこの問題をしっかりと対応していけるんだという姿勢を見せて、定住人口の増加というように繋がるという道もあるように思えるので今後は考えていければと良いと思う。

・地方創生推進交付金事業報告

伊佐 PR 課説明：

委員：もう一度、第 1 期のまち・ひと・しごと創生総合戦略とこの地方創生推進交付金事業の関係性を伺いたい。

市：第 1 期まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策の中に DMO と連携して観光客を誘致するための PR 活動を行うこととしていたことから、地方創生推進交付金を活用し事業に取り組んできた。地方創生推進交付金を活用しながら、第 1 期まち・ひと・しごと創生総合戦略に取り組んできたこととなる。

委員：交付金の実績報告の金額の中で端数までの小さい金額があるが、これは市がこの単位で使用するよう指示をしたものなのか。

市：実際にイベント等などでの活動により使用された金額である。

(2) 第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組み状況について

・令和 2 年度実施分の事業の取組み状況について

企画政策課説明：

委員：基本目標 4 の「まちの機能確保と小さな拠点づくり」の成果指標「次世代通信関連の構想の策定」は今年度策定されるのか。

市：これについては今年度ではなく、地域 IOT を今後検討していくこととしている。

委員：第 1 期の成果説明で観光施設や公共施設に wi-fi を整備されたとのことであったが、そういうことも非常に大事だと思うが、コロナ感染拡大により、様々な企業で働き方改革の一環としてテレワーク推進が図られている。そういう中で伊佐市というのは、鹿児島市や宮崎市とか熊本市とか、あと県庁所在地にも非常に近いし、福岡市にも新幹線を利用すれば 2 時間程で行けるまちである。ふるさとテレワーク事業とかを活用

してテレワークを実施する方々が移住されたり、起業をする方が作業できる通信機能が完備されたシェアオフィス、既存の建物を活用した環境づくりを検討されてはどうか。

市：作成を進めている「過疎地域持続的発展計画」の素案の中でサテライトオフィスなどの検討について触れている。具体的な実施計画の段階には至っていない。

委員：高齢化が進む中で地域の中で支え合おうということを目的としてコミュニティで2つの校区が助け合いの組織を立ち上げられた。これは「高齢者お助け隊」といって、いろんな高齢者が自分で出来ないことをこの地域の中で助け合っていこうという趣旨のものである。この活動をぜひ推進していこうと、社協をはじめ協議を進めている。このことは一番大事なことであろうかと思っているが、このことを基本目標4に入れられないか？

市：いただいたご提案については、2次伊佐市総合振興計画策定の中に取り入れたい。

委員：第2期についての取組み状況は一見、6次産業化も目標値に近づいてたりして、もうじき、達成可能な成果指標もある。まだ計画期間があるので、しっかりと取組みを進めていく必要があると思う。第1期について、できていないところは原因を分析して第2次に繋げないといけないと思う。良い成果が出ているところはどんどん強調していけば良いし、上手くいっていないところは、やるのかやらないのかを含めて改善策を検討していかなければならないと思う。どうかその辺をよろしく願いしたい。

市：第1期まち・ひと・しごと創生総合戦略についての成果については分析して、本日いただいたご意見を第2次伊佐市総合振興計画に反映させていきたい。

閉会